

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

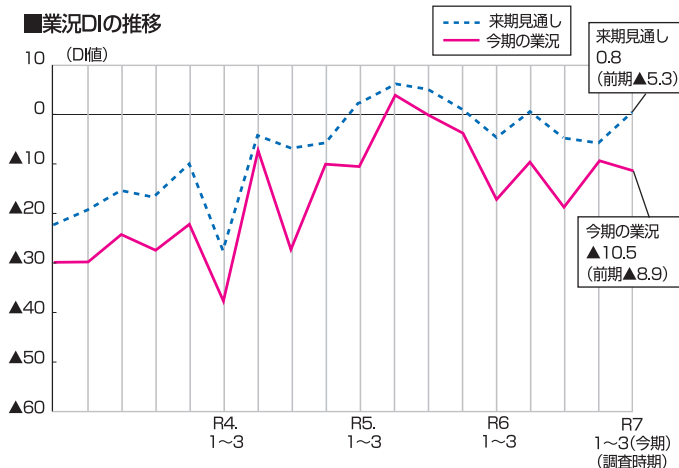
DIがプラスなら……好転、上昇基調
DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

DI値	▲25P以下	▲25~ ▲10P未満	▲10~ ▲10P未満	10~ 25P未満	25P以上
景況	特に悪化 ↓	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ↑

鹿児島商工会議所 景況調査

調査期間 令和7年1~3月
回答企業数 135社



今期業況は前期から横ばい。来期見通しは緩やかに改善の見通し。

【今期(令和7年1~3月期)の業況】
全産業の業況DI値は、▲10・5
(前期比マイナス1・6ポイント)
と前期に比べ数値が減少した。産業
別に見ると製造業・建設業・卸売業
でDI値が減少し、小売業・サービ
ス業は増加した。特にサービス業は
前期比プラス22・3ポイントと大幅
な改善を見せた。

【来期(令和7年4~6月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、0・8
(前期比プラス6・1ポイント)と
前期から改善した。産業別で見ると
建設業が大きく悪化し、それ以外の
産業では横ばいもしくは改善を示す
数値となっている。

■産業別DI値表

		前期 [R6.10~12] (A)	今期 [R7.1~3] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [R7.4~6]	
業況	全産業平均	▲8.9	▲10.5	▲1.6	0.8	→
	製造業	5.9	0.0	▲5.9	3.0	→
	建設業	▲9.1	▲36.4	▲27.3	▲25.0	↓
	卸売業	▲8.3	▲21.1	▲12.8	5.3	→
	小売業	▲16.7	▲12.5	4.2	▲8.0	→
	サービス業	▲19.4	2.9	22.3	18.2	↗
売上額	全産業平均	▲2.9	▲2.2	0.7	9.8	→
	製造業	34.3	▲2.9	▲37.2	21.2	↗
	建設業	▲21.7	▲31.8	▲10.1	▲22.7	↓
	卸売業	▲4.2	0.0	4.2	5.3	→
	小売業	4.0	8.0	4.0	8.0	→
	サービス業	▲34.4	8.6	43.0	23.5	↗
資金繰り	全産業平均	▲5.8	▲8.2	▲2.4	▲6.8	→
	製造業	2.9	▲11.8	▲14.7	▲3.0	→
	建設業	▲8.7	▲18.2	▲9.5	▲31.8	↓
	卸売業	▲16.7	▲15.8	0.9	▲5.6	→
	小売業	▲16.0	▲12.5	3.5	▲16.0	↘
	サービス業	3.1	8.6	5.5	11.8	↗
採算	全産業平均	▲2.2	▲12.0	▲9.8	▲1.5	→
	製造業	14.7	8.8	▲5.9	3.0	→
	建設業	▲17.4	▲54.5	▲37.1	▲45.5	↓
	卸売業	4.2	▲21.1	▲25.3	10.5	↗
	小売業	0.0	▲16.7	▲16.7	0.0	→
	サービス業	▲15.6	2.9	18.5	15.2	↗

【今期の売上額・資金繰り・採算】
全産業の売上額DI値は、▲2・2
(前期比プラス0・7ポイント)と
なった。産業別では製造業が前期から
マイナス37・2ポイントと大きく悪化
し、逆にサービス業は前期比プラス
43・0ポイントと大幅に改善している。
全産業の資金繰りDI値は、▲8・
2 (前期比マイナス2・4ポイント)
となり、産業別では製造業と建設業を
除いた各産業でDI値が増加した。

全産業の採算DI値は、▲12・0
(前期比マイナス9・8ポイント)を
示した。産業別ではサービス業が唯一
前期比プラス18・5ポイントとDI
値が増加した。

・ 米の価格が高騰を続けており、
さらに玄米の在庫確保自体が困
難な状況となっている。(卸売
業)

・ 物価高騰を通じて消費者の購買
意欲の薄れと低価格商品への需
要の高まりを感じる。(小売業)

【回答企業のコメント】
・ 売上は前年同等の水準にあるが、
新製品の販売に関していくつか
課題がある。これをクリアするこ
とで売上増加へとつなげていき
たい(製造業)